

|             |                                     |
|-------------|-------------------------------------|
| 産業建設委員協議会記録 |                                     |
| 開 会 年 月 日   | 令和 4 年 1 月 12 日                     |
| 開 会 時 刻     | 午後 3 時 00 分                         |
| 閉 会 時 刻     | 午後 3 時 58 分                         |
| 出 席 委 員 名   | ○井村貴志      三野泰嗣      川口 浩      北村 勝 |
|             | 野崎隆太      野口佳子      宿 典泰            |
|             |                                     |
|             |                                     |
|             | 世古 明 議長                             |
| 欠 席 委 員 名   | 上村和生                                |
| 署 名 者       | —                                   |
| 担 当 書 記     | 森田晃司                                |
| 協 議 案 件     | 1 伊勢市観光振興基本計画について                   |
|             |                                     |
|             |                                     |
|             |                                     |
|             |                                     |
|             |                                     |
|             |                                     |
|             |                                     |
|             |                                     |
|             |                                     |
|             |                                     |
| 説 明 員       | 産業観光部長、産業観光部参事、観光振興課長、都市整備部長        |
|             | 都市整備部次長、都市整備部参事、その他関係参与             |
|             |                                     |
|             |                                     |
|             |                                     |

## 協議経過

井村副委員長が開会を宣告し、会議成立宣言後、直ちに会議に入り、「伊勢市観光振興基本計画について」を協議し、協議会を閉会した。

なお、詳細は以下のとおり。

開会 午後 3 時00分

### ◎井村貴志副委員長

ただいまから、産業建設委員協議会を開会いたします。

本日の出席者は7名でありますので、会議は成立しております。

本日御協議願います案件は、「伊勢市観光振興基本計画について」でございます。

議事の進め方につきましては委員長に御一任願いたいと思いますが、御異議ございませんでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

### ◎井村貴志副委員長

異議なしと認めます。そのように取り計らいをさせていただきます。

## 【伊勢市観光振興基本計画について】

### ◎井村貴志副委員長

それでは、「伊勢市観光振興基本計画について」御協議願います。

当局からの御説明をお願いいたします。

産業観光部長。

### ●佐々木産業観光部長

本日は御多用のところ、産業建設委員協議会を開催していただきまして、誠にありがとうございます。

本日の案件は、ただいま御案内がありましたとおり「伊勢市観光振興基本計画について」の協議案件1件でございます。

詳細につきましては担当から御説明申し上げますので、どうぞよろしくお願いいたします。

### ◎井村貴志副委員長

観光振興課長。

### ●小林観光振興課長

それでは、「伊勢市観光振興基本計画について」御説明申し上げます。

現在の伊勢市観光振興基本計画は、本年度で計画期間を終えるため、新たに令和4年4月から取り組む方針等を示す基本計画案策定に向け、観光関連団体等の皆様と共に協議を進めてまいりました。この度、計画案がまとまりましたので、お示しをさせていただきます。

す。

資料１－１を御覧ください。

まず、１の「目的」でございます。平成30年３月に策定しました現行計画に基づき、４か年にわたり様々な取組を行ってまいりました。本年度末に現行計画が目標年次を迎えることから、本市における観光施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、次期計画の策定を行うものでございます。

次に、２、「計画の期間」でございます。記載のとおり新計画は、2022年度、令和４年度から2025年度、令和７年度の４年間としております。

次に、３、「計画案策定の経過」と続けて４番「計画の内容」でございます。別添の資料１－２伊勢市観光振興基本計画（案）34ページを御覧ください。

計画案策定の経過としまして、計画の策定に当たり御審議いただいております推進委員会の皆様の名簿でございます。皇學館大学の板井教授を委員長に、有識者や観光関連団体の推薦者からなる17名の委員の皆様により、コロナ禍における観光振興や観光危機管理などの新たな課題に対する対応を含め御審議いただきながら計画案の作成を行ってまいりました。また、35ページに会議等の実施記録を掲載しております。

恐れ入ります。10ページを御覧ください。こちらには、感染拡大への対応を含めた観光危機管理やSDGsなどの新たな観光課題に対する意見を伺うために複数回にわたりワーキンググループや市内外の事業者様等へ個別ヒアリング等を実施してまいりました、その際の主な意見を掲載しております。

続きまして、計画の内容でございます。同じ資料１－２の１ページをお開きください。手前の左側のページの目次のほうを御覧ください。１ページから10ページの第１章から第３章までは、観光施策を検討する際の前提となる社会動向等の現状や課題等の整理に関して記載しております。

恐れ入ります、11ページを御覧ください。ここでは新たな計画における５つの基本理念を示しております。一部文言の追加はありますが、基本的には現行の計画とほぼ同じ内容で、現行を引き継いでいるような形になります。

次に、13ページを御覧ください。次期式年遷宮の年と想定されます2033年や新計画の目標年次となる2025年度の伊勢市のありたい姿を定めております。なお、次期式年遷宮の年における伊勢市のありたい姿は現行計画を引き継いだものとなっております。

次に、14ページへお移りください。伊勢市のありたい姿の実現に向けた計画全体の達成状況を計る指標として、三つの目標指標を定めております。

なお、この項以降に記載しております各目標指標の令和３年現状値につきましては、できる限り最新情報を使用するよう努めているところでございますが、調査中また集計中のものもあり、現時点での速報値や令和２年の実績値などを記載しているものがございます。３月の報告の時点におきましては確定数値を記載させていただきたいと思っておりますので、御理解いただきますようお願いいたします。

それでは、計画全体の三つの目標指標の説明をさせていただきます。

一つ目は、伊勢市観光の代表的な存在であり、主たる目的地となる両宮の「神宮参拝者数」でございます。二つ目は、多様化する観光ニーズや混雑緩和、観光目的地の分散化による安全・安心の確保を図る指標としまして「観光地平均立ち寄り箇所数」、三つ目に、

観光振興による経済効果を図る指標として「市内宿泊者数」の三つの指標を設定しました。

次に、16ページを御覧ください。ここからは、伊勢市の観光施策として4年間で取り組む六つの基本方針と具体的な方針を記載しております。

本計画では、六つの基本方針ごとに一つずつ「方針における目標指標」を設定しております。

恐れ入ります、18ページへお移りください。基本方針1は「神宮を中心とした物語性の発掘・展開」で、目標指標は「観光客総合満足度」を設定しております。本方針による具体的方針と4年間で取り組む例としては19ページに記載しております。

次に、20ページ、基本方針2でございます。基本方針2、「ターゲット別PR戦略と関係人口の確保・創出」を御覧ください。従来から取り組むターゲットを定めた戦略的な誘客の他、新たに関係人口増加につながるデジタル技術等を活用した取組などについて記載しております。目標指標は、市と共同で運営する「伊勢市観光協会のホームページ」のセッション数を設定しております。

次に、23ページを御覧ください。基本方針3、「産業視点での観光の推進」でございます。コロナ禍で冷え込んだ市内での観光消費額の増加を目指しまして、目標指標は「一人当たりの観光消費額」を設定しております。

次に、26ページ、基本方針4をお願いいたします。基本方針4、「安全・安心な受入環境・受入基盤の整備」でございます。観光客の混雑の時期、時間、場所の来訪者のピークを平準化するための取組やバリアフリー観光推進など、多様な来訪者が安心して楽しめる受入環境を構築していくことを記載しております。目標指標は、令和3年の市民アンケートで新たに得ます「市内観光地で安心して観光客を迎え入れられる感染症対策が行われていると思う市民割合」で設定いたしております。

次に、29ページ、基本方針5を御覧ください。基本方針5、「共生と競争の視点での連携の推進」でございます。目標指標は「再訪意向率」を設定し、広域連携による共生視点を持ちながら、伊勢志摩地域の中でも特に伊勢市は再び訪れたい観光地として選んでいただけることを期待しての設定としております。

次に、31ページ、基本方針6でございます。基本方針6、「市民・地域のおかげさまの心の醸成と連携の強化」でございます。伊勢市民として誇りを持って来訪者におもてなしをできる担い手の育成や、次期式年遷宮に向けた民族行事などの伝統文化を継承していくための取組の推進について記載しております。目標指標は、市民アンケートによる「市民満足度（市民プライド・誇り）」を設定しております。

次に、33ページを御覧ください。計画の推進・実現に向けた推進体制でございます。

本計画に基づく各年の取組結果や目標指標に対する達成度合い、伊勢市観光振興基本計画推進委員会内に設置します検証部会で検証を行うことを記載しております。検証結果についてはその都度お示しをさせていただきたいと考えております。

恐れ入りますが、資料1-1にお戻りください。5、「今後の予定」でございます。

本日、御意見をいただきました後、1月18日から2月18日までパブリックコメントを実施させていただきたいと考えております。パブリックコメントを実施した後、基本計画推進委員会におきまして、再度御意見等への対応を御協議いただく予定をしております。その後、3月議会中に産業建設委員協議会をお願いいたしまして、そこでパブリックコメン

トの結果の報告をさせていただきたいと考えております。その後、再度推進委員会へ報告をさせていただきまして、今年度内の計画策定を行いたいと考えております。

以上、「伊勢市観光振興基本計画について」御説明申し上げました。何とぞよろしく御協議賜りますようお願いいたします。

◎井村貴志副委員長

ただいまの説明に対しまして、御発言はございませんでしょうか。

川口委員。

○川口浩委員

この計画については旅行会社、あるいはその観光業界の集客プランということではなく、市としてのね、基本計画であるということがやっぱり押さえておかなければいけないポイントだと思うんですよ。私の地元の近くなど見ても一つ、やっぱり交通渋滞とかオーバーツーリズムの問題っていうのも一部ではありますけれども、実際に起きています。

これは私の意見ということになりますけれども、訪れてよしということだけではなく、やっぱり住んでよし、暮らしてよしの視点があってからこそその伊勢市の基本計画だと思いますので、その点を過去の振り返りも含めて検証して、しっかりと新しい計画では明記させていただきたいというふうに思っています。訪れていただける方と住民との方の間でね、変な反目というのは決してあってはならないと思いますので、市民みんなが笑顔で迎えられる伊勢市をつくっていくという視点での取組を求めたいと思います。以上です。

◎井村貴志副委員長

観光振興課長。

●小林観光振興課長

ありがとうございます。おっしゃっていただいたとおり我々も、また策定の推進委員会のほうでも住む人も満足ができるまち、ここについては非常に重く受け止めておるところでございます。

五つの基本理念の中にも記載をしております訪れる人が満足のできるまち、住む人も満足ができるまちということで並列して記載をさせていただいたところでございます。ここについては基本理念、現行の今年で終わる計画についても同じ表現を使っているところでございます。以上です。

◎井村貴志副委員長

ほかございませんでしょうか。

野崎委員。

○野崎隆太委員

まずは、新しい振興基本計画の策定に関して御協力をいただきました委員の皆様の御努力に敬意を表したいと思います。その上でですけども、計画について数点、中身をお聞か

せをいただければと思います。

まず、計画を割と隅々まで拝見をさせていただきましたけども、コロナ禍における全国の観光のトレンドであるとかSDGsとか、世界的な流れにも触れている非常にきれいにまとめられた計画かなというような印象を受けました。言い方を変えると、現実的な泥臭さをちょっと感じにくくて、ばら色とも言えるような計画であることがちょっと危惧をされるのではないかなというのも素直な感想でございます。

今回、協議会ということもありますので、例えばということも含めてあえて細かいことから幾つかお伺いさせていただければと思うんですけども、まず、スポーツ観光とかアウトドア観光、このあたりの部分についてお聞かせいただければと思います。

これちょっと現状の今までやってたものとの変化っていうのがちょっと見えにくくて、今までの継続、いわゆる単なる継続なのか、それとも新しいものを進めていくのか、ちょっと疑問なんですけども、まず、アウトドア観光のほうでナショナルパークとかそういったような文言もあったりはするんですけども、伊勢市はそもそもキャンプ場というものは存在しなかったような気が僕はしてます。これハードの整備を含めてこういったアウトドア観光という話を記載をされたのか、それとも今ある環境の中で適当に遊んできてほしいというような話なのか、これどちらの思いで記載をされているのかお聞かせください。

◎井村貴志副委員長

観光振興課長。

●小林観光振興課長

アウトドアの部分につきましては、やはり伊勢市の観光としては弱い部分でございます。この中では施設の整備までは想定をしておりません。ただ、先ほどちょっと触れていただいた国立公園等の利用促進という部分もありますので、そういったところを観光資源として紹介していくことにも力を入れていきたいというふうに考えております。

おっしゃっていただいたこのハード整備、キャンプ場等の整備については今回の計画の中では想定をしておりません。以上です。

◎井村貴志副委員長

野崎委員。

○野崎隆太委員

少し意地悪な質問しますけども、その点、この策定委員会の中では、今のハードの現状であるとかハード整備の必要性とか、そういったものっていうのは何の意見も出なかったんですか。

◎井村貴志副委員長

観光振興課長。

●小林観光振興課長

そういう意味でのハード整備の部分というのは取り上げるというか、意見としては特になかったというふうに思っております。

◎井村貴志副委員長  
野崎委員。

○野崎隆太委員

今ここにづくつくってくれという話を僕はここでするわけでもないんであれですけども、近隣、玉城町のあの施設は割と有名ですけども、そういったところがもともとハードがあって初めてそこに来るっていう、そのハードの内容がキャンプ場なのか、それとも自然体験施設なのか、場合によってはもうちょっと違うものかもしれませんし、河川敷をきれいに整備してるだけかもっていうときもありますし、そういったことも含めてハードありきっていう部分も当然あるので、危ない自然の中で遊べるわけじゃありませんし、そのあたりは、ちょっと本計画策定までの間に庁内でも、もしくは計画の委員さんの中にこの辺についてどう思ってるっていう話を戻してもらえたらと思います。

同じようにスポーツでもほとんど同じ質問しますけども、これ既存の施設っていうのは、やっぱキャパシティであるとか来勢団体っていうのは頭打ちっていうのも当然考えられますし、これ計画策定に当たって今のハードの整備状況であるとか、委員の中には県の方は入ってませんけども、伊勢市でスポーツ誘客しようと思ったらメインの一つは県有施設だと思うんですけども、アリーナとか陸上競技場であるとかそのあたり、県との打合せというのは何か調整とか議論とか、もしくはこのハードそのものについてどう思ってるかとか、そんな話はされておりますでしょうか。

◎井村貴志副委員長  
観光振興課長。

●小林観光振興課長

今回の計画策定に当たりましては現状の施設の利用を前提に考えておりましたことから、県のほうとおっしゃっていただいたような情報共有というか意見交換というのは行っていないというのが現状でございます。以上です。

◎井村貴志副委員長  
野崎委員。

○野崎隆太委員

市に対し県が別にけんかするという話ではないんですけども、例えば県有施設の利用の方向性が全然違う可能性も当然あるわけで、そのあたりは市が、例えばもっと自由に使える施設が要るっていうような話であればハード整備せないかんですし、県の協力も得られてるっていう状況で本来は資料が出てくるべきかなというふうには思います。全然県が、例えばサンアリーナをスポーツ観光よりもうちずっと音楽イベントをしたいんやわって話

になってきたら全く計画に乗れないので、そういうことかなというふうにちょっと思います。

もう一個、まちなみとか景観っていうのが27ページに書いてあるんですけども、これもちょっとこの計画策定に当たって庁内でどんな議論があったかをちょっと教えてほしいんですけども。このまちなみ、景観っていうと、今全国で最大の景観破壊の一つとして問題なってるのは、山林を伐採したりとか、河川とか海岸沿いに大規模に設置される太陽光パネルとか、ああいったものが景観の阻害をしてるっていうので結構な問題になっているかと思うんですけども、これ計画が本気なのであれば、そういった問題に取り組んで根本的な景観保護に取り組むために条例つくっていかうとか、4階も交えてそんな話をされてるのかなというふうに思うんですけども、これ景観を守るっていうのは、書くのは簡単に書けると思うんですけど、実際どこまで考えられてこれって書かれとるんですか。

◎井村貴志副委員長

観光振興課長。

●小林観光振興課長

景観につきましては、伊勢市は景観行政団体になっておるというふうに認識しております。そのことから伊勢市景観計画に係る届出制度の運用も行われているということで、それに従って行われる手続等につきましては大きく景観を損ねることのないものというふうには認識しております。

情報につきましては、4階の都市計画課とも共有をさせていただいておるところですが、先ほどおっしゃっていただいた太陽光パネルなんかにつきましても、今のところこちらに具体的な例、手続を進めるとかそういったものは出てきておりませんが、出てきた場合は市のほうが持っておりますガイドライン等で進められていくものというふうには認識しておりますので、大きく景観を損ねるようなことはないというふうには認識しておるところでございます。

◎井村貴志副委員長

野崎委員。

○野崎隆太委員

この部分もそうなんですけど、結局計画として書くのは割と簡単に書けるんですけど、現実的に衝突することって多分いっぱいあると思うんですよ、どっちを優先するかっていう話も当然出てきますし。だからそのあたりは本気でそっちへかじを切ろうと思ったら、僕はもちろん協力しますし、賛成しますし、だけでも中途半端ってのは結構双方の意見が結局ぶつかってしまって両方傷つく結果になるかなというふうにもちょっと思います。ここに書いてあるやんみたいな話になりますし。もう一個、これは意見だけですけども、先ほど比較表の説明を課長からいただいたんですけども、これ、今からパブリックコメントなんかも行われるっていうような話で、この振興基本計画が使われるっていうような話で理解はしてるんですけども、僕ら議員も含めて、それから今回の計画を策定していただ



いた委員の皆さんも含めて基本的に観光には皆さん詳しいので、詳しい前提で話をしているので、この比較表15ページですね、でもいいかなというふうにも思うんですけども、計画の期間とかがこの4年間であったりだとか、前の計画がここで切れたっていう変わり目のタイミングは分かるんですけども、この神宮参拝者数の目標800万人に持っていこうとか市内宿泊者数を70万人に持っていこうっていうこの数字が、この表だけ見るとものすごい上がってるような気もするし、実際これって正しい数字なのかとか、目標値の置き方として正しいかどうかというのはこの表だけだと正直言うと分かりにくいかなというふうに思うんです。もちろん、僕らみたいに知ってる前提で話をするのであれば、令和元年度の参拝者数は550万人より多かったっていうのは分かるんですけども、ただ、下がったところの現状値に対して対比って目標では書いてないので、その点はまだいいかなと思うんですけど、ただ、下がったところがスタートの現状値っていうと、ある意味ではグラフで勘違いをさせてしまうというところもありますけども、今までの過去が、例えば令和元年度が何人だったっていうような、コロナ禍っていう特殊な状況に入る前の数字をどこかでもうちょっと参考として記載していただくかっていうほうが計画としてはちょっと分かりやすいかなと思うんですけども、これは意見だけなのでお伝えをいただければなというふうに思います。いかがですかっていうのはいいですわ、これ僕の意見です。大丈夫です。何かありますか。

◎井村貴志副委員長  
観光振興課長。

●小林観光振興課長

確かにおっしゃっていただいたように我々、推進委員のほうも絶えず数字を見ているメンバーでいろいろ協議をしてきた部分もあって、おっしゃっていただいた部分が感覚的に抜けてしまってる部分もあるというふうになるかもしれませんので、このパブリックコメントまでに間に合えば、ここの表を少し加工させていただきたいと思います。

ただ、今おっしゃっていただいた平成31年、令和元年、コロナ前になりますけども、実は改元の年で非常にお客さんが多かった年でもありますので、平成30年、それから令和元年をできたら追加させていただきたいと思いますので、推進委員のほうにもちょっと連絡を取らせていただいた上でパブリックコメントに何とか間に合わせたいと、今御意見いただいた上でちょっとそのように考えておりますので、よろしく願いいたします。

◎井村貴志副委員長  
野崎委員。

○野崎隆太委員

分かりました。これ以上多くは申し上げませんが、20ページの例えば観光協会さんなんかもどの数字を使ってほしいかっての一度聞くといいかもしれませんね。うち、もっと本当は今までのページビューが多かったんやっていう話なのかもしれませんし、400万というこのページビューが、これが多いのかどうなのかっていうのも含めて、本当はこの数字を使ってほしいんさっていう、これコロナ禍やで減ってましたっていう話があるかもしれま

せんし、そのあたりも一回確認をしてもらいたいなと思います。

ちょっと最後というか、全体の話を見せてもらおうと思うんですけども、SDGsっていうお話でお伺いをさせていただければと思います。計画全部を見てですけども、僕はこれ、SDGsにちょっと寄り過ぎてるのではないかなというふうに感じてます。というのも、SDGsは免罪符でもございませんし、観光のゴールがSDGsでもない僕は思ってます。

例えば12ページ、伊勢市の今後のありたい姿という話がさっきありましたけども、12ページなんか見ると、大きくSDGsがバンって載ってきて、それでそこから伊勢市のありたい姿がどうってことが一番上に注釈であるんですけど、常に若々しくってこのとこわかはどうって話から、「伊勢市の今後のありたい姿の実現を目指します」っていうのがあるんですけど、観光の計画にこれを市民が例えば望んでるのかとか、もっと言うなら、その2030年以後にSDGsの扱いってどうなるのかっていうのが皆さん理解した上でこの計画つくっているのかとか、あとは、その意味でSDGsをやりたいのか、観光をやりたいのかとか、13万人の市民とか観光客が求める計画っていうのが、SDGsにこれだけ寄っている計画をそもそもユーザー、お客さんとか、もしくはその市民から望まれているのかっていうのが、ちょっとどれぐらいの理解をどんなふうに考えているのか分らないんですけども、この計画ってそもそも誰のための計画なんですか。

◎井村貴志副委員長

観光振興課長。

●小林観光振興課長

この計画につきましては、観光に携わる我々、また事業者の皆さん、それから先ほども地元市民のお話もありましたけども、当然のことながら市民に対してもということでの計画というふうに考えております。

◎井村貴志副委員長

野崎委員。

○野崎隆太委員

観光とか伊勢市にある意味関わる全部の人ってことですよね。その上でですけども、19ページにSDGsの項目がちょっと書いてあるんです。SDGsにより持続可能な観光地としての魅力や付加価値の向上みたいのがあるんですけども、ブランド力の向上であるとかフードロスとか、こういったごみ減量とか、こういったのは一つの視点だと思うんです。ここにこれが入ってることは否定はしませんけども、持続可能な観光地とかまちづくりというのは、本来の大きな意味でのSDGsというのはこういうことじゃないと思うんですよ。もっと現状は、本当の意味で危機感を持つ、SDGsという観点で見ればですけど、こういうような状況があるんじゃないかと思ってます。というのは例えばですけど、僕おはらい町に去年の年末も含めて何度かちょっと行ってきたんですけども、ちょっとずつまちの雰囲気、これ悪口じゃなくて、京都みたいな雰囲気になってきたなっていうふうに

感じてます。何度も悪口ではないと言いますけども、キャラクターのお店であるとかチェーン店なんか割と進出が目立っていますし、伊勢らしさが何ぞやという話を僕なんか言うところとおこがましいので言いませんけども、見ようによっては誰がやっても、もしくはどこでやっても一緒じゃないかなってというような店がちょっとずつ増えてきてるなっていうふうに思ってます。個別の店とかチェーン店とか、これもまた悪口じゃなくて、純粋な懸念として、例えば伝統行事に対して考え方とか協力の仕方なんかも、自らが参加者として今までずっと参加してきた地場の店とかその辺に僕は大きな温度差があるんじゃないかなというふうに思います。例えば大きな行事ごとに対する道路占有、道路の使用許可、ああいったものに例えば反対されるような事態が起きてきたら根本が揺るぎかねへんという、この振興計画の根本が揺るぎかねませんし、うちの商売を邪魔すんなっている話とかになってきたときに、それが裁判で認められるかは別の話ですけども、例えばそれぞれの店で後継者がいなくなってくると、店舗がもっとさらに全国的にいろいろチェーン店と言いましたけども画一化されてきて、空き店舗の問題が出てきたりとか、全く別の問題が僕は出てくると思うんですよ。SDGsというのはごみがどうという話も当然一つなんですけども、本来取り上げるべきは、人口減少が進む中で伊勢市が観光地として持続して成長していくことの方法があるのかとか、観光を通じて市全体が向上して観光業以外の住民からも理解をされることで、また恩恵を与えるような仕組みをつくることで市全体が観光業のまちとして市民全部から愛されて、それが結果で市の持続可能性につながったりとか環境につながるっていう、それが本来のSDGsの視点じゃないかなというふうに思うんです。4年間の計画なので、短期で変化するっていう話でもありませんし、その伊勢が伊勢としての伝統文化とか地域行事、神宮を中心としたまちづくりってのは今後可能であるかという姿勢が4年間でぱっと変わる話ではないにしても、実際そういったSDGsと観光っていうのは、本来はそういった持続可能な観光としての都市ができているのかとか、ごみがどうっていうのは分かるんですよ、ごみがなけりゃそれだけ持続可能には近づくので、もっと大きな意味で、観光業の担い手がずっと携わることができて、なおかつ持続可能な観光業として成立してるかっていうような視点だと思うんですけども、もうちょっとそういった方向に、大きな意味でのSDGsを掲げていただきたいなと思うんですけど、そのあたりってどんなふうにお考えですか。

◎井村貴志副委員長  
観光振興課長。

●小林観光振興課長

まさに今、おっしゃっていただいたことを私も再認識をさせていただいたところですが、お店のほうの後継者不足というか、担い手がいなくてという問題は確かに今、従前聞いてきておる。実際、自身での店舗はやめて不動産としての貸出しをしているとかそういうお店、おっしゃっていただいたほかのところもあるような店がっているのが、そういうところに新規出店されたりとかそういう現状も起こってきております。出店を否定するものではありません。関係人口の増加も図っていく必要がありますので、伊勢で商売、起業する人を排除するものではございませんが、地元の方で地元らしさとか、そういったことの思

いも含めて商売が続けられるような、そういったことの思いも含めて支援していく必要が  
あるかと思います。

一方、起業で新たに店を始めようという人には、我々のほうでも商工のほうで企業支援  
の補助もありますので、そういったものを活用いただくとかそういうものもあります。

一番の問題は、SDGsの考え方の部分をおっしゃっていただいたところ、まさにそう  
やとは思いますが。ただ、今回このような形で推進委員の方にもまとめていただきましたの  
で、今回の部分につきましては現状のものでパブリックコメントを進めさせていただきた  
いというふうに考えております。私のほうとしてはそういう考え方をしておりますので、  
御了承いただきたいと思います。

◎井村貴志副委員長

野崎委員。

○野崎隆太委員

協議会なのでもう意見だけ言って終わりますけど、せっかくそのDXとかデジタルが書  
いてあるので、例えば持続可能な観光業を続けていくためにはそうやってデジタル技術を  
活用して、ある意味で楽したらいいっていう話じゃないですけども、それによってどんな  
ふうなまちづくりができるのかとかどんなふうについてというのが、もうちょっとSDGsを  
絡めてDXとかを台座で引っ張るなら、重ねたら見えてくるものもいっぱいあるんじゃない  
かなというふうに僕は思います。

その上でもう一個だけ、22ページに団体旅行の話が書いてあるんですけど、これは少し  
冷たい言い方になるかもしれませんが、SDGsを学ぶことができるコンテンツの造成  
と支援っていうようなことが書いてあるんです。これあえて意見をさせてもらうんですけ  
ども、「SDGsを学べるから旅行に行こう」っていう人って本当におるのかと、僕はこ  
れ疑問です、正直なところ。例えば百歩譲ってと言いますか、伊勢市が大切にしてきた神  
宮と、この中にたくさん書いてありますけど、そのSDGsの関わりがこんな形で日本人  
の精神文化についていう話やったらまだ分かるんです、伊勢市にしかないから。だけど、S  
DGsを学ぼうって言って旅行先を決めるっていう人は、1億何千万人か日本人いますけ  
ど、1万人いますかって言われたら僕はちょっとそこは疑問です。それで観光客が10万人  
ぐらい増えるのかって話をされるともっと疑問ですし、だからそれがこの数字に基づいた  
計画なのか、それとも思いが走って書いてみたっていう計画なのかっていうので、ちょっ  
とこの辺が、僕はさっきばら色と言いましたが、最初に、戻ってくるんですけどかなと  
いうふうにも思います。

皆さんSDGs未来都市って行かれたことございますかね。富山とかあの辺に行かれた  
ことはございますかね。あの辺に行くと、駅を降りると駅舎の前にSDGsのでっかいモ  
ニュメントがバーンってあるんですよ。市役所の目の前にも普通にありますし、入り口に  
アーチかかってますし、職員全部このバッチを付けているんですよ。それぐらいSDGs  
そもそも取り組んでる都市っていうのは、やっていることが全部、もっとまちのシンボル  
がどこ行ってもいっぱい色が書いてありますし、そういうふうな状況に実はなっているん  
です。

その上でですけども、未来都市でも何でも無いっていうあれですけども、このまちがどうやってSDGsを伝えることができるのかと。僕、他団体でSDGsの普及に取り組んできましたので、本気でこれやる気なのかというふうなのになんかちょっとだけ計画に文句あるよりは、ほかのまちを見ていると、伊勢市は遅れてるのに何を学習しに来んのやと。学習させるんやったら、伊勢市としては世界一のSDGs都市を目指すのか、それとも日本一を目指すのか、東海一を目指すのか、三重県一を目指すのか。今どの位置に伊勢市がいてこの文言が書いてあるのかっていうのが、ちょっとさっき言った本気でやろうとしてるのかが、そのいろんな事情があってこの文言に落ちついたのかもしれないけども、いろんな事情がありまして、さっき言った伊勢市に特化した、例えばさっきも言いましたけど、神宮とSDGsがこういうふうに関わったとか、それは百五総研なんかも話をしていますので、歴史から考えるとこうであるっていう話なら分かる。だけれども、もっとよそのまちを一度、できれば委員の皆さんとも見ていただいて、SDGsを伊勢市が学習させる環境にあるかどうかという話をぜひとも研究をしていただきたいと思います。

これは実際に富山とかに僕は行っているんで、取手なんかもそうかな、あの辺とかも行って見たらきっと分かると思います。駅降りたら大きなモニュメントがあるので、一度ちょっとその辺を自分とこのSDGsの状況というのを確認をしていただいて、委員の皆さんと、ぜひとももう一度、委員会に計画を持って来ていただければなというふうに思います。以上です。

◎井村貴志副委員長  
産業観光部長。

●佐々木産業観光部長

貴重な御意見ありがとうございます。この貴重な意見、それから今後行いますパブリックコメント、そういったところを含めて、また推進委員会にも諮りながら、まとめさせていただきたいというふうに思っておりますので、よろしくお願いいたします。

◎井村貴志副委員長

ほかに御発言ございませんでしょうか。  
宿委員。

○宿典泰委員

今のSDGsのことが御質問であったので、私もその観点で申し上げると、正直何か絡め過ぎとすると違うかなと、観光事業の中で。いや、私はそこまでやらなくても、私自身は日本人はSDGsについては、江戸時代からずっと割と環境面やら食べ残しをしないとか、そういったことを当たり前にしてきた民族だと思うので、観光と絡めるのもそれは大事な話で、はやりかも分かりませんが、そんなに絡める必要がないのかなということこれで読まさせていただきました。

それで、ワーキンググループからでも個別のヒアリングからでも、SDGsのことについてこれを読む限りは、そんなに市民の方に浸透するような状況でもないし、やっぱりこ

の観光のこの推進計画自体が市民の方に見せたときに、こういうことで伊勢市は観光に進んでいくんやなということがイメージが湧かないといけませんよね。でも、そこからすると、ちょっと毎回観光のことで勉強してみえる方はピンと来るか分からんけども、市民を巻き込んでという話にはちょっと程遠いような気がするんですけど、そのあたりはどうでしょうか。

◎井村貴志副委員長

観光振興課長。

●小林観光振興課長

確におっしゃっていただいて、SDGsにかなり偏ったというか、ボリュームを置いたような計画にはなっております。今回の計画策定に当たっては、先ほど冒頭にも申し上げましたとおりSDGsであったり観光危機管理っていうことがこれから取り組んでいく必要なことであろうということで勉強会、ワーキングなんかも開催した上での計画策定に至っておりますので、確かにそこへ重点をかなり置いたっていうような、寄っていったようなところもあるかと思います。

ただ、今回SDGs、先ほども野崎委員も言われました神宮の取り組んできたことっていうのが実際SDGsにつながることでありますっていうところが、策定委員の皆さんにも実は響いてる部分がありまして、こういった形になっております。

また、パブリックコメント等で御意見もいただきながら、策定委員のほうにもお伝えさせていただきたいと思います。私のほうから以上です。

◎井村貴志副委員長

宿委員。

○宿典泰委員

分かりました。いろんな視点があるので一つの考え方だけではないと思うから、議会のほうからもいろんな意見を申し上げても、それはその意見であるとは思うんやけども、ちょっと今回は、見るとSDGsがえらい色濃くいろんなところに出てくるので、それを市民の方がやはりこれを見たときに理解できるのかなというようなことを非常に感じました。

2点目は、32ページにも伊勢っ子の事業であるとか、中間的な視点としては担い手の育成というようなことが書かれています。その中で大事なところは、将来を担う観光に関係してくる子供たちも当然おるんだろうと思いますけれど、また、伊勢の歴史文化伝統ということが書かれていますけれど、これはここ観光の推進計画でやるべき話と、もう一つはやっぱり教育委員会との連携をちゃんとやって、教育の中に歴史・文化や伝統のことを教育する時間をきちっと設けてくれと言ったほうが、僕は担い手の話からすると、当たり前小学生が伊勢の神宮のことであったり歴史や文化のことであったりっていうのを薄く広くでもいいので知っているというような状況をつくるのが大事かなと。私、伊勢っ子の事業が悪いとは思いませんけれど、参加者が初めてやるっていうことについて非常にちょっと

疑問を感じます。やはりもうちょっと基本的なところで教育との連携ということをやらないと、これはもう進まない話ではないかなと思っておりますけれど、そのあたりちょっと御意見お答えください。

◎井村貴志副委員長  
観光振興課長。

●小林観光振興課長

おっしゃるとおり学校現場でのこういった情報、子供たちに伝えてくとかいうことも我々の立場から言えば考えながら、教育のほうにも相談をかけていきたいとは思っています。

以前には御遷宮の行事のこと、白石持ち行事とか御木曳行事、民俗行事になりますので、地域挙げての取組を進めていただく以上はそういったお話もさせていただきたいと思しますので、今後の取組として協議させていただきたいと思っています。

◎井村貴志副委員長  
宿委員。

○宿典泰委員

11ページに五つの基本理念ということで書かれて、僕はそのとおりだろうなと思っています。それといろいろと基本方針の中に具体的な方針が幾つもあって、それを今度、政策として予算をつけて事業化をしていくっていうことは大変な作業だなということで僕、見せていただいたんですけど、このあたり余りにも広げ過ぎて、いろんな基本方針があることによって実はどれも実りがちょっと少ないということにならないんかなということを非常に感じるんですけど、そのあたりは今後もこういう形で進んでいくんですかね、ということをおもうんですけど、いかがですかね。

◎井村貴志副委員長  
産業観光部長。

●佐々木産業観光部長

御心配ありがとうございます。本当に広げ過ぎてもっていうお話っていうのはごもっともだと考えております。

ただ、コロナ、こういった状況もありますし、ころころ変わるところもあります。先ほど冒頭で課長も説明させていただいたとおり検証部会を年1回以上開催をしながら進捗状況、そういったこと把握して、計画をまた練り直すということもございますので、そういったところに対応していきたいというふうに考えております。よろしくお願いいたします。

◎井村貴志副委員長  
宿委員。

○宿典泰委員

ちょっと全体的な話として、いろんなカラー刷りのところが非常に見にくくて、老眼が進んできた私には非常にきつい話で、今回、全体を差し替えたということでしていただいたんやけども、残念ながら私のほうは早く勉強させていただいたので、ほとんど読み込みしてから差し替えたっていうんやけども、どこをどう差し替えたんか、また読まないかんみたいな話です。ですので、そういうときで緊急事態のことですから、どこがこの文言が変わってきたとかいうことを赤字印刷していただくと今後ありがたいかなと、こんなことを思います。

それと、非常に私思うんですけど、観光事業の大事な点は、やっぱり皆さんがやっておるようなソフト事業とか各現場へ出ていただいて、観光のお客等、また、観光事業者という話をして進んでくるわけでありですけど、大事なことはもう都市整備との連携というのか、そこら辺がすごく大事で、観光事業としてこう進んでいきたいと言うてもですな、都市整備のほうがある予算あるかという話では、これはもう全然、観光地として事業が進んでいかない話ですよ。バスで来ていただいていろいろと周っていただこうと言っても、もうそのあたり百五銀行行ったらもう大渋滞で二度と来るかみたいなことになってはいかんわけで、そのような交通の関係をどのように都市整備のほうで解決してくれるんやということになるわけじゃないですか。駐車場しかりですけど、そのあたりの都市整備との連携ということをしきりながら政策としてやっていかないと、なかなか実行は難しいんじゃないかなとこんなことを思うんですけど、観光のほうに言うてもいかなから都市整備のほうでちょっとお答えいただけませんか。

◎井村貴志副委員長

都市整備部参事。

●小林都市整備部参事

御意見ありがとうございます。今非常に渋滞しておるのが繁忙期でございます。繁忙期につきましては、伊勢地域観光交通対策協議会などで市民の方に迷惑かけないように、また、来ていただいた方が円滑に目的地に行くようにいろんな対策をしております。そこら辺で今後も効率化、適正化に努めてまいりたいと思っております。

◎井村貴志副委員長

宿委員。

○宿典泰委員

交通だけが問題やと言うとるわけじゃなくてね。観光事業として観光の政策として進めるときに、道路問題もあるやろう、駐車場の問題もあるやろうと、そこへ行くまでのいろんな施設の、例えば信号の問題であったり一通の問題であったり、たくさんあると思うんですよ。そのあたりというのが、やはり都市整備の事業化をちゃんとしていかないと、なかなかソフトだけのことで一生懸命走ってもですな、現実的に実施状況というのはなかなか出てこないと思うので、そのことを申し上げておるんです。その一つに交通体系の



こともあるでしょということを申し上げただけで、ハード的なものは観光とのリンクの中できちっと予算化をしていくということやないと進まんと思うんですよ。

◎井村貴志副委員長  
都市整備部長。

●森田都市整備部長

ありがとうございます。今、申し上げましたとおり交通の関係については観光客、また来訪者にとって非常に重要なことですので、しっかり連携していきたいと思います。観光とも連携していきたいと思います。

また、今おっしゃっていただきました観光の施策に必要なインフラということになるかと思います。そういったところにつきましても併せて観光部署とまた連携して調整もさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

◎井村貴志副委員長  
宿委員。

○宿典泰委員

最後にしますけれども、いろいろと検証部会のほうでも内容があるのでそれを読ませていただくと、やっぱり情報発信やら見える化が必要やということを書いてもらっておりますけれども、ここら辺の検証部会からの内容についてどのような反省の基に次進んでいくんかちょっとお答えをください。

◎井村貴志副委員長  
観光振興課長。

●小林観光振興課長

これまで、今おっしゃっていただいたようなこの情報の見える化とかっていうのが、実際情報発信についてもマンネリというか、同じようなことを繰り返してきた部分もあります。改めて効果的な情報発信、そういったことを研究しながら、タイミングを逃さないような情報発信等に努めていきたいというふうに考えております。以上でございます。

◎井村貴志副委員長  
宿委員。

○宿典泰委員

ちょっと言い忘れたけど、SDGsの関係でいくと、伊勢市の総合計画を見せられてもそんなにSDGsと連携したようなことは書いてないんですね。今日僕持って来たんやけど、もうほとんどあれかなと。急に、総合計画もそうやし、この観光振興もそうやけども、SDGsの関係とって急にいろんなことが出てきたので、そのあたりもちょっと

整理をしていかないといかんかなと、こんなことを思います。

私は最後に、この計画というのは市民の方が受入れができやないかんと思うんですよ。観光事業者やらそれに絡む方だけがこのことを納得してやっておってはいかんので、当たり前前に伊勢市に暮らしてみえる方が観光振興の中でこんな考え方で、こういうことで将来に進んでいきますということを示すわけやから、こんなに来るんやったら私も一市民として協力しましょうねということでないといかんので、そのあたりをちょっと確認をできるように、ちょっと横文字が多いんで市民の方がちょっと理解できるかなというところがあって、それは書き方の問題で、最近のことですからそのあたりはちょっと気をつけてやっていただきたいなと。やはり市民の方に理解をしていただくということが前提だと思うので、よろしくお願いしたいと思います。ありがとう。

◎井村貴志副委員長

他に御発言はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

◎井村貴志副委員長

他に御発言もないようですので、本件はこの程度で終わります。

以上で、本日御協議願います案件は終わりましたので、これをもちまして産業建設委員協議会を閉会いたします。

閉会 午後 3 時58分